

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会  
（第2回）議事要録

- 日時 平成28年9月28日（水）19時～21時7分
- 場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
- 出席 小澤紀美子会長、早川峻委員、村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、島英二委員、木村文委員、興梠信子委員、千綿澄子委員、平田昭虎委員、山崎君枝委員、越智征夫委員、高石優委員、花俣延博委員、新垣俊彦委員  
事務局（堀井副市長、木村参事他）  
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊部長他）、傍聴者3名
- 欠席 水谷俊博副会長、高橋健一委員、高橋豊委員、岡田敬一委員、島森和子委員
- 配布資料 1. 第1回協議会以降の動向について  
2. 第四期周辺整備協議会とりまとめについて  
3. 第四期周辺整備協議会の今後の進め方について  
4. 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の進め方  
5. 東側外構整備について（報告）  
6. 事業者提案サービスについて（報告）

## 1. これまでの経過

- ・「第1回協議会以降の動向について」について事務局より説明を行ったが、意見等は特に挙げられなかった。

## 2. 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の進め方について

- ・「第四期周辺整備協議会とりまとめについて」について委員より説明を行い、その後、「第四期周辺整備協議会の今後の進め方について」について事務局より説明を行った。
- ・委員 確認事項の部分で、「SPC」という表現ではなく、冒頭に正式名称を入れて頂きたい。また、確認事項の中で、「今年度のプラットホームでのイベント「クリーンセンターとあそぶ」」について、「平成29年4月より運営するSPC」の後に「武蔵野美術大学学生も加わり、企画が話し合われている」とあるが、武蔵野美術大学の学生は、パンフレットとポスターのデザイン、及びペットボトルのオブジェの製作を担当しているのみであり、企画の会議には出席していないため、修正頂きたい。
- ・事務局 事実確認を行い、修正させて頂く。
- ・委員 確認事項の部分で、「「地域力の向上」を当面取り組むことにより、「低炭素モデルの実現」「まちづくりとの連携」につなげる」とあるが、このように表現すると、地域力の向上に関する取り組みをまず始めて、後から低炭素モデルの実現やまちづくりを進めるという印象を与える。これまでの議論はそういった内容ではなく、先ほど説明した資料の通り、環境から入っている。入り口としてごみ減量化を進め、減量化により生まれた予算を環境教育に使って、市民が環境に向けた行動を起こす。その行動が、環境問題に限らない地域課題に地域住民が自立的に向き合って取り組んで地域力を身につけていく。そのため、2番目に地域力が出てくる。3

番目に、その構造はまちづくりにもつながっていくという目標の描き方をしているが、そうではなく、入り口を地域力の向上にすれば、多くの市民に対する間口も広がり、さらに発展的になるのではないかという内容の議論だった。事業の取り組み、順番を考えるというよりは、入り口を地域力の向上にしようということだと思う。

もう一つが、その下の「周辺整備については」とある部分で、都市マスタープランが出てくるが、イメージがわかりにくいいため、もう少し具体的に説明して頂きたい。

- **会長** どこから始めるというより、こういう場で委員各位が集まっていること自体も地域力向上の一環であるし、本会の傍聴者や、子供への啓発活動、イベント等へ参加頂くことで相互に関係づけていく。ごみだけではなく、低炭素社会をつくるのにLEDの普及率が物すごく低い。パリ協定の2100年までに温室効果ガスをゼロにするという目標とはほど遠い状況にある。深く考えて行動に結びつけていくということがこの協議会では求められており、武蔵野市は、あるいはこのエリアは、緑をつくることに非常に力を入れているため、単に屋上だけが緑化されればいいということではなく、それがつながっていないと空気の流れもできないということになるのではないかと考えている。そういったことも含めて議論をして頂きたいし、やはり我々がもっと深い学びにつながるようにしていかなければ、市民の方、住民の方の行動啓発までにはいかないと考えている。

- **委員** 荏原環境プラントと鹿島建設のJVというのは、それぞれの持っている技術力として、荏原環境プラントはごみの処理において先進的な企業であり、鹿島建設は自然の再生であったり、今流行りのグリーンインフラという技術において先進的な企業で、その中で、私たちは批判してきたが、リサイクルガーデンやレインガーデンという提案もあった。せっかくSPCという外とつなぐ団体を作っているため、周辺協議会もアイデアを出すなどして関わっていくということが非常に重要だと思う。

その後の話になるが、周りの自然、外構のちょっとした植栽であっても、そのつくり方というのは、当初提案されたような雑木林であったり、鹿島建設の技術力で本当に自然を再生できるような、もしくは、周りの自然を呼び込むようなつくり方をしていって、もともと体育館の前にあった雑木林につながって来て緑町パークタウンまでつながっていく、あるいは千川までつながっていくような緑を形成するくらいの心意気を持ってやって頂きたい。そのためには、今回の外構はささやかであっても非常に重要だと思っているし、これからつなげていく次期の工事というのも非常に重要だと思う。そのため、やはり環境部でやるからには、環境というものを総合的に検討していくというのがこれからの考えではないか。

- **委員** 緑町コミセンの提案ということで、ふれあい広場の腰高な木をなくして、子供が遊べるような公園にするということを提案しているわけだが、公園の使い方ということについては、我々はそういう面では足りないのではないかと思う。

例として、杉並の公園では、子供たちの泥んこ遊び等、小屋をつくって、昔に返った子供が遊ぶ、そういう自然体の活動をしているということ。もう一つ、水道局の近くにある大野田公園では、木と木の間ハンモックをつけたり、子供が綱渡りに等しいような遊びをするとか、たき火をして昔の自然に返った遊びをしたり、プールを用意して水遊びをするなど、空間が大きい公園というのはいろいろな子供が遊べる、要するに昔の遊び方。今、遊びについては制約が多いが、NPOが昔に返った遊びを公園に取り入れて、監視していけば、未来の子供たちにも自然に戻るような幅広い子供ができるのではないかと思う。

・**会長** そういった泥遊びとか、自然に触れたり、ちょっと危険を感じたりする遊びで危険回避能力も育成し、子供の感性に響くような学びも、あるいは遊びを通して将来の意欲というものを育てていく公園であってほしいということと捉えていいか。具体的に広がるかどうかは、各団体との話し合いという場があるため、連携していかなければならないと思う。

・**委員** 今の時代は子供から大人まで、手が何をやっているかという点、キーボードを動かしているだけ。人との対話もない。農業体験や、手でもみをつくるとか縄を編むとか、そういう文化から全く離れた時代になっていて、子供が手で何かをするということがなくなってしまった。だから、手の機能が全く昔と違う。

社会的に変化していますから、新しい社会に対応できるようにキーボードは必要な部分になっていくと思う。だけど、エコプラザのほうでは子供たちがキーボードから離れる、そういうものを子供たちに伝える場所として、また、家庭でそういうことが大事だということを体験してもらえそうな場所に、コンセプトの一つの方針として加えて頂きたい。

・**会長** 私は、福島調査を震災以降やっていて、子供の外遊びができなくなったということによっていろいろな弊害が出てきている。そういう意味では、子供が元気に育ち、そして豊かな人生を、あるいは自分でいろいろなことに対応できる能力を育てていく、未来に対応できるような公共空間づくりの視点は、周辺あるいはエリアのデザインに入ってもらいたい。

ただ、それはNPOも加わらないと展開できないため、提案に関係する団体が話し合う場を行政で設けなければならないのではないかなと思うため、この協議会から依頼をするという形で展開してもらいたい必要があるかもしれない。

・**委員** 今のことに関連して、会長の意見に賛成だが、私は、40年前に世田谷の冒険遊び場でプレーリーダーをしていた。そこではスウェーデンやデンマークなどで行われている、樹木や廃材を使った創造的な遊びを生み出す遊び場づくりが取り入れられていた。地域で遊び場についてのアンケートを行ったが、近所の人ほど遊び場に対して危険・反対という人が多かった。子どもが怪我をしたりトラブルもある。大人が管理をしっかり考えていかないといけない。NPOに丸投げするのではなく、地域でしっかりその場所を支えていく覚悟がなければできないと思う。

・**委員** 事務局の説明の中で、なぜ周辺整備だけここへ抜き出して出てきたのかということがよくわからない。

第四期周辺整備協議会でまとめる報告書には、周辺整備、エコプラザ、北エリアのことを記載するというイメージしている。だから、資料に記載されている「都市計画マスタープラン「クリーンセンターを核とする周辺まちづくり」を目標に、課題出し、提案を行い、まとめる」というのは、この第四期の中でまとめるという意味でいいのか。

・**事務局** そう考えている。

・**委員** まとまった後、市関係部署とその課題、提案に関係する委員が直接話し合いを行って、今後の方向性を確認していくということか。それとも、まとめる中でもそういうことをやっていくというイメージなのか。そこがよくわからない。

・**事務局** エリア整備や周辺整備、およびエコプラザについて、まだ議論に入っていない中で、今後どのようにまとめていくかというのは、作業部会で議論していくべきだと考えている。周辺整備については、どこまで協議会でまとめていくか、どこまで具体化していくかというのも今後議論になると思うが、まず周辺整備について協議会としてどういった課題提起や提案が

あるのかという事は一度まとめていただく必要がある。その上で、取り扱いをどうしていくかという事はまた議論をしていきたい。

- **委員** 私のイメージとしては、第四期では北エリアを中心的にやっていくという方向でまとめたのではないかという気がしている。
- **委員** この第四期の取りまとめの中では、エコプラザも北エリアも周辺整備についても基本的な考え方をまとめて、その中で、北エリアについては周辺整備協議会できちんと議論し、詰めていく。周辺整備についてはいろいろ個別性もあるため、第四期のまとめの中で、基本構想レベルで位置づけられることはきちんと位置づけておき、その上で、個別具体的な話については、それ以降、もしかしたらそのときはもう周辺整備協議会を離れるかもしれないし、対象エリアの方が主体になって議論するという整理だと思う。そこだけ確認できればいいのではないか。
- **委員** 北エリアの意見が出ているが、かなり細かい内容が多いため、そぎ落としていけると思う。ただ、この委員会の中で何度言ったか分からないが、北エリアというのは少なくとも運動施設部分は公園ではない、このエリアの施設率は50%を超過している。都市公園ではないから法的に問題があるわけではないが、そういう状態は、公園としては緑が少ないということになるわけで、それを改善していくことは一つの方向性として考えるべき。  
もう一つ、ここでのテニスコートのあり方について、テニスコートがここでしかできないということではなく、市の中で分散して配置していったほうがいいのではないかということが考えられる。同時に、テニスコートあるいは野球場の隣接した駐車場がなくなってしまっているが、それが離れたところでいいのか等、全体としての駐車場配置のあり方がいいのかという話は当然出ているため、北エリアだけでなく周辺に及んでしまうが、その辺の大きな方向性について、今解決はできないが検討の必要があるのではなからうかということ、私としてはこの会の中で再三言っているため、どのように盛り込んでいくかということ、これから作業部会等の中でも発言していきたいと思う。
- **会長** この協議会自体だけで議論できる課題ではないので、全市的な視野を入れるべきとか、分散を考える方向がいいとか、そういうことも作業部会等で議論をしていくということがこの資料の課題のところ述べていると解釈して進めていきたい。先ほど委員から発言のあった周辺整備に関連して、そういう形で北エリアを少し議論していくという。そしてエコプラザのほうに入っていくという形よろしいか。
- **委員** 今、新築が非常に盛んだが、空き家がどんどんふえている。武蔵野市はいきいきサロンというのをやっている。お年寄りが集まる場所、それに若い夫婦が低家賃で入ってお年寄りの面倒を見るというだけでもって、いきいきサロンが、若い人たちがいるだけで安心できる場所になると思う。そのため、地域のまちづくりとして、ゴーストタウンにならないように空き家をちゃんと有効に活用するという事は大事だと思う。
- **会長** 今の御意見は、空き家にして壊す、そして廃棄物をふやすより市の施策として若い人がそういうところを安い家賃で借りるような施策に結びつける、そして交流ができるような使い方に結びつけてほしいという解釈でよろしいか。基本的には、ここはごみ関係から検討していくということで、ごみを出さない仕組みとして、単なるごみだけの課題ではなく、空き家対策との結びつけもあるというアイデアとして受けとめる。

### 3. 新クリーンセンター建設事業について

- ・「東側外構整備について」、「事業者提案サービスについて」について事務局より説明を行った。
- ・**委員** 外構の樹木について、いろいろな樹木の候補が挙がっている。ちょっと心配するのは、ちょっと薄れているが、セアカゴケグモやマダニ等が草むらで発生し、被害者が出ているという状況。植えた植物に寄生する虫がどんなものかというのはよくわからないのだが、例えばコナラ等を集まるカブトムシだったら子供たちも喜ぶし、柑橘類があれば蝶が卵を産んでまた羽化する。そういう自然の勉強という意味では子供には非常に有効かと思うのだが、例えばチャドクガ等の害虫がはびこって被害を及ぼしたり、水たまりでボウフラが羽化する。そのようなことは、注意をしているとは思いますが、事業者には植生の問題も含め、害虫がつかないような植物の選択をしていただきたい。
- ・**委員** 今回はヤブツバキを移植するため、チャドクガは発生するが、基本的には歩道からは後退した位置としているため、直接さわることはないと思う。一番いいのは消毒すればいいだろうという話はあるのですが、消毒していいものかどうかというと、結局、鳥が食べてくれたりするため、いいとは言えない。ちょっと申しわけないが、それで人が死ぬことはないのと、ツバキがだめになることもない。枝先が伸びて枝が混まないようにして風が通るようにしてやれば、多少つきにくくはなる。そういった自然の中のものなので、発生しないようにできるというのは嘘になってしまうためお答えできない。

それから蚊のことも、提案されている通り、少し土地を下げたりとか上げたりして、少し水がたまって浸透していくようなところを設けていると思う。そういうところもやはり一時的には水がたまったりするし、草のつゆが出てくればやはりしようがない部分はある。

今回の植栽としては、歩道側に野芝を設け、明るい空間を設けている。それから、どちらにしても高木は桜やイチョウもあるため、どうしても樹林の下になってしまうが、なるべくその空間を広くとっているという形で、奥に常緑のツバキがあつて、手前にムラサキシキブであったり、幾つか雑木に近いようなものを植えたらどうかという提案をして、その手前のところはもう少し低い地被類ということで、この間、ジュウニヒトエがいいという話があつたが、ジュウニヒトエだと野草になってしまうため、ここでは洋種のジュウニヒトエ、アジュガというものを提案させて頂いた。そのほかいろいろ、低いものを手前に入れるような形で考えているため、市役所に向かつては明るい空間になるのではないかと思う。

今でも蚊がすごいので、危惧はされているということはよく分かるのだが、少し期待に添えていないような形にはなっている。

- ・**会長** 温暖化が進んで熱帯性の生き物が北に上がってきているということで、デング熱については前から言われているようなことがあるが、そういうものと共存していかなければならないということも頭に置いて、そのためにはどうしていくかということも考えないといけないと思う。意見は十分に伺って、農薬の問題も議論していかなければいけないかなと思う。
- ・**委員** 資料3-2の裏の「3 今後について」の「(2) 事業者提案サービス等意見交換会」、この第1回の「市と事業者の関係、役割分担について」という部分で、大事なのはやはり市と事業者と市民、特に我々周辺住民との関係とか役割分担が重要だと思う。それもこの第四期の協議会のまとめの中でちゃんと触れておきたいと考えている。今後の周辺、北エリアプラスエコプラザ、エコセンターの周りも含め、どう運営していくのかということについてはきちんとまとめの中で書いていきたいと思っている。そこも視野に入れた形で意見交換会をすると、よ

り有益なのではないかと思う。

- **委員** 今の意見に関連しているが、クリーンセンターの運営協議会というのは、クリーンセンターの運営のチェックも行っている。運営の一部をムーコンシェルの方で行うのであれば、今後、運営協議会にも参加して頂くべきだと思っている。運営をする以上、やはり一緒に話し合いの場において頂きたいし聞いて頂きたいので、そういう関わり方も考えて頂きたい。
- **委員** 地域とのつながりという視点がどこにあるのか。地域の課題を、地域力やコミュニティや低炭素というところへどうつなげていくのか、意見交換会にきちんと反映していけばいいのだと思うが、今後、きちっと視点を出して頂きたい。
- **会長** 8月に、やはり私たちのこの協議会の議論なども聞いてほしい、そこから始めてほしいということがあった。それはなぜかという、基本的にこの会議では地域力とか低炭素社会をつくる、まちづくりという視点でやってきている。単にハウツーを提供するだけのものではないということが基本的にあると思う。

#### 4. その他

- **事務局** 調整の上、10月20日から作業部会を始めていくため、具体的な議論を進めて、11月30日に第3回の協議会を開催したい。

以上